

長崎大学 大学院教育学研究科

Graduate School of Education, Nagasaki University

2025

教職大学院への誘い



さあ、一緒に未来の教育作りを始めよう！

本研究科には、学校教育の即戦力、或いはミドルリーダーとなる人材育成を目指す3つのコース（子ども理解・特別支援教育実践、学級経営・授業実践開発、教科授業実践）と学校や地域教育界のリーダーとなる人材の育成を目指す管理職養成コースがあります。これらのコースは、長崎県が直面する地域の縮小化等の今日的課題への対応や計画的な人材育成に資するために、研究者教員が持つ高い専門性と学校・教育行政の経験がある実務家教員による協働した指導体制のもと、理論と実践の往還を意識した学び合いと省察が行われています。特に各院生がテーマを掲げる実践研究では、本研究科と教育委員会・教育センター・学校現場での指導のもと、長崎県の教育界が培ってきた教育の不易の部分と大学の講義等で学ぶ教育の流行を踏まえ、学校や地域といった背景も捉えながら、院生自身の教育的な課題の解決により教員としての力量を高めるとともに、その成果をもって地域教育界に貢献することを目指しています。



教育学研究科長 藤本 登

入学者別の養成教員像

志願者の履歴と免許資格に応じて用意された四つの教育プログラムで養成される教員像は次のとおりです。

現職教員の場合

1年プログラム

または

2年プログラム

教師としてスクールリーダーを目指して学ぶ人のプログラム

- 強い生徒指導力と高い学習指導力を身につけ、チーム学校を先導する
- 組織論等を生かした確かな学級・学校経営力を身につける

教員免許を持っているが教職経験のない学士の場合

2年プログラム

教師としての資質・能力を高めたい人のためのプログラム

- 子どもや教職をより深く知る
- 授業実践力、指導力をつける
- 学校における課題解決に取り組む資質・能力を培う

教員免許を持っていない、あるいは他の校種の免許を取得したい学士の場合

3年プログラム

新たに教師の道を目指したい社会人や教員免許を持たない人のためのプログラム

- 2年間で教職の基礎を学ぶ
- 3年目は教職経験のない学士の2年プログラムと同じ資質・能力を身につける

- 子ども理解・特別支援教育実践コース
- 学級経営・授業実践開発コース
- 教科授業実践コース

アドミッション・ポリシー

上記3つのコースは、入学者に次の資質・素養を求めます。

- 学部教育で培った能力を発揮させ、学校教育への課題意識を持ち、問題解決に立ち向かう意欲を持っている。
- 子どもを理解する力、授業を実践する力をより高めていく意欲がある。
- 児童生徒の発達・教育に関する基礎知識・授業実践の基盤となる教科の基本的知識を持ち、基礎的な倫理性と教師に必要なコミュニケーション能力がある。
- 特に現職教員では、自己の能力向上を目指すとともに、地域の教育界の充実に貢献する意欲がある。

カリキュラム・ポリシー

上記3つのコースは、次の知識の修得、資質・能力の育成、責任感等を培うためのカリキュラムの編成、学修方法、学修支援を行います。

- 生徒指導・教育相談について：的確な子ども理解力を身につけ、生徒指導・教育相談を実施できる高度な力を育成する。
- 学級・学校経営について：教育現場でリーダーシップを発揮し学校の諸機能を向上させ、学校や学級の経営に関するマネジメント能力について高い知識を修得させる。
- 教科等の実践的指導法・ICTの活用について：教科の知識・技能を獲得しICT機器等も活用して授業改善のできる優れた授業実践力と教科指導力を身につけさせる。
- 教育課程の編成と実施について：児童生徒の資質、能力、ニーズや現代的な教育課題を理解して教育課程を編成し実施できる高度な力を育成する。
- 学校教育と教員のあり方について：地域社会との連携や協働に関する学びや教育実習を通して学校教育と教員のあり方について高い知識を修得させ、教育を担う専門職としての使命感と責任感を培う。

教職実践専攻(3コース)の実習スケジュール(例)

教職実践専攻(3コース)の教育実習は、学校教育実践実習1～5の5つの実習から構成されます。これらの実習をいつ行うかは、下図のように履修プログラムによって異なります。各実習では、主たる取組内容が異なっています。また、自らが実習の目的を設定し、附属学校園およびその他の実際の学校現場で実践を行います。これらの実践を、学校教育実践研究1～4に繋げ、最終的には実践研究報告書にまとめます。

プログラム		学年	曜日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年プログラム	現職教員		火	実践実習4					実践実習5						
		1	火	実践実習1					実践実習2	実践実習3		実践実習4			
2年プログラム	現職教員	2	火	実践実習5											
		1	火	実践実習1					実践実習2	実践実習3					
2年プログラム	学部卒	2	火	実践実習4					実践実習5						
		1・2													
3年プログラム	学部卒	3	月・火	実践実習1	実践実習2				実践実習3	実践実習4		実践実習5			

1年プログラムは実習1～3までを免除

ディプロマ・ポリシー

上記3つのコースは、所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を取得し、次の資質・能力を備えた者であると認められ、実践研究報告書(最終レポート)の審査および最終試験に合格した者に対し、教職修士(専門職)を授与します。

- 一人ひとりの児童生徒のニーズを理解し、的確に対応できる能力
- 高い実践力を持ったスクールリーダーとなる資質
- 学級・学校の機能をより向上させるマネジメント能力
- 優れた授業実践力と適切な教科指導力

子ども理解・特別支援教育実践コース



本コースでは、子ども理解や特別支援教育の視点から、一人ひとりの子どもを大切にしたい、子どもたちの可能性を伸ばしたいという思いを持ち、教育相談や障害もしくは障害の可能性のある児童生徒の教育について関心のある人を求めています。

「特別支援アセスメント事例研究」「発達と学習の心理学」「学級集団づくり・ソーシャルスキル教育の指導法」などのコース独自のカリキュラムによって、子どもたち一人ひとりの実態と教育的ニーズを的確に把握し、適切な指導と支援を行うことのできる高い専門知識と実践力を持つ教員を養成します。

子どもたちの発達の实態や特性は、一人ひとり異なります。しかしながら、集団での関わりの中ではつい「させなければいけないこと」「させてはいけないこと」などに目が向かいがちになることも多いのではないのでしょうか。教師が子どもたちの特性を正確に把握する力や指導の技量を伸ばすことにより、声掛けや接し方を変えることができます。そのことは、集団の中にあっても、一人ひとりの子どもたちが「自分」の良さを意識し、その力を活かしながら、自分の所属する集団をより良くしていきたいという意欲にもつながることでしょう。

本コースでは、子どもの持つ可能性を引き出す教師の力や、不登校や生徒指導上の諸課題、障害のあるもしくは障害の可能性のある子どもの障害実態や発達に関連した諸課題などそれぞれのニーズや課題にあった教師の対応力を養います。

専攻共通科目

- 学習指導要領と教育課程(初等、中等)
- 授業研究の理論と実践
- 特別支援教育の授業・教育課程論
- 教育の情報化の研究と実際
- 児童生徒の理解と方法
- 教育相談の理論と実際
- 特別支援教育の心理学
- 学級経営と学校経営の理論と実践
- 教職実践協働運営演習
- 教員の資質と職務
- 特別支援教育の基礎理論
- 教職実践の省察と事例研究
- 学校教育実践研究

コース科目

- 生徒指導・キャリア教育の方法
- 学校カウンセリングの実践法
- 教育心理学の応用と実践
- 特別支援教育のシステム論
- 特別支援アセスメント事例研究
- 発達障害児の理解と支援
- 特別支援教育の生理・病理学
- 肢体不自由児の理解と支援
- 病弱児の理解と支援
- 重度重複障害児の理解と支援
- 特別支援学校・学級経営論
- 学級集団づくり・ソーシャルスキル教育の指導法
- 学校の危機管理

実践研究報告書(最終報告書)のテーマ例

- 特別支援学級での学びを活かす交流及び共同学習にするための通常の学級における授業の工夫について
- 小学校に在籍する自閉スペクトラム症児への指導・支援について－お互いに認め合うクラスづくりと個別指導支援について－
- 特別支援学級に在籍児童の行動の問題に対する適切なアセスメントと介入について
- 高等学校におけるジェンダー教育実践に関する研究－生徒及び教師のジェンダー観の変容に着目して－
- 令和の日本型教育に求められる多面的なアセスメントによるプロアクティブな生徒指導の実践と考察
- 幼小接続における「気になる子ども」への支援－小学校就学を見据えた幼児教育の実践－
- 中学生の英語学習における動機づけを高める授業実践

学級経営・授業実践開発コース



本コースは、活力ある学級を作り、効果的な授業を
実践できるとともに、適切な教育課程を編成する力、
授業を改善する力等を備えた、高い実践力を持つ教員
を養成します。また、地域社会との連携、同僚との協
働など、学校内外をとりまく様々な関係者とのコミュニ
ケーション構築を積極的に推進し、学校教育を総合的
にマネジメントできる力を持った、スクールリーダー
を段階的に育成していきます。

このような人材育成を目指して、専攻共通の授業科
目や学級経営、生徒指導、各自の研究課題に即した実
習科目、また、当コースの独自科目として「学級経営
における人間関係の形成」、「教科経営の実際と授業分
析・評価」、「道德教育の理論と実際」、「ふるさと教育
と総合的な学習」等の授業が開設されています。さらに、
本コース院生が主体的に取り組んでいるワークショップ型
のセミナー「クロスセッション」もあります。このセッション
では、現職教員学生と学部卒学生が共修・協働し、
研究者教員、実務家教員も一緒に参加して、学生が自
らの教育実践研究について途中経過を報告したり、報
告について他者と議論したりすることで、より高い実践
の力量の形成に努めています。

そうした座学で学ぶ理論と実習科目を通じた実践を
往還しながら、(1) 児童や生徒の学びの実態を十分踏
まえて教育実践を省察し、(2) 児童・生徒の学びに合
わせて学問的理論や知識を再構築し、(3) 教育内容や
教育方法を改善・開発するという手順を踏んで、自
らの研究課題に即した実践研究を行います。理論と実践
を積み重ねた研究は、修了時に「実践研究報告書」と
してまとめます。

専攻共通科目

- 学習指導要領と教育課程(初等、中等)
- 授業研究の理論と実践
- 特別支援教育の授業・教育課程論
- 教育の情報化の研究と実際
- 児童生徒の理解と方法
- 教育相談の理論と実際
- 特別支援教育の心理学
- 学級経営と学校経営の理論と実践
- 教職実践協働運営演習
- 教員の資質と職務
- 特別支援教育の基礎理論
- 教職実践の省察と事例研究
- 学校教育実践研究

コース科目

- 学級経営における人間関係の形成
- 教科経営の実際と授業分析・評価
- 教材論と学習指導の実際
- カリキュラムの理論と実践
- 道德教育の理論と実際
- ふるさと教育と総合的な学習
- 人権教育の理論と実際
- 福祉教育の理論と実際
- 国際理解ワークショップ
- 複式学級の教育と実際
- 学校の危機管理

実践研究報告書(最終報告書)のテーマ例

- 児童の実態把握を踏まえたやり抜く力を育成するカリキュラムマネジメント—道德・学活・運動会を関連させて—
- 対等で平等な関係性を目指す認め合える教室づくり—特別活動に着目して—
- 中学校家庭科におけるキャリア教育の実践と可能性の検討
- ICTを活用した授業実践の事例研究—GIGAスクール構想の実現に向けた一人一台端末の活用を中心として—
- 中学校における社会に開かれた教育課程の課題と改善の手立て～総合的な学習の時間を中心としたカリキュラム・マネジメント～
- 中学校数学において学びに向かう生徒の姿をめざした教師の手立て
- 学ぶ楽しさを感じられる小学校外国語の授業づくり

教科授業実践コース



本コースは、教科教育、教科内容および児童・生徒に対する深い理解に基づき、各教科の授業で効果的に指導することができる高い授業実践力をもつ教員を養成します。

そのため、必修の授業「教科の指導と評価」「教科指導におけるカリキュラム・マネジメントと情報活用能力の育成」をはじめ、各教科の内容学および指導法に関する科目が多数開設されています。いずれも少人数クラスできめ細かい指導が行われ、専門分野の理解の深度を図るとともに、各自の授業実践に活かせるよう、理論と実践の往還を図っています。指導体制としては、一人の学生に複数の指導教員を配置して実践実習を実施します。まず「学校教育実践実習1～3」で児童・生徒に関わる知見を深め、次に「学校教育実践実習4・5」で教科の授業を数多く実践します。

本コースの「学校教育実践実習4・5」では、各自が設定した課題に沿って組み立てた教科の授業を実践します。新学習指導要領に応じた授業の工夫や、新しい社会の変化に応えた授業、生徒が主体的に学ぶ工夫など、各教科の課題解決に向けて「学校教育実践研究3・4」で検討し、確かな授業実践力を身につけていきます。その成果は「教育実践研究フォーラム」や「実践研究成果発表会」で発表し、内外からの助言指導を元に、今後の研鑽に繋げていきます。

専攻共通科目

- 学習指導要領と教育課程(初等、中等)
- 授業研究の理論と実践
- 特別支援教育の授業・教育課程論
- 教育の情報化の研究と実際
- 児童生徒の理解と方法
- 教育相談の理論と実際
- 特別支援教育の心理学
- 学級経営と学校経営の理論と実践
- 教職実践協働運営演習
- 教員の資質と職務
- 特別支援教育の基礎理論
- 教職実践の省察と事例研究
- 学校教育実践研究

コース科目

- 教科の指導と評価
- 伝統的言語文化に関する教科内容研究法
- 社会科・地理歴史科教育の理論と方法(初等)(中等)
- 理科授業設計
- 情操を育む音楽活動実践研究
- 美術の教材開発 a(心象表現)
- 身体運動の理論と実際
- 環境とエネルギーの教育展開
- 家庭科授業の研究と開発
- 授業のための英語文化理解

実践研究報告書(最終報告書)のテーマ例

- 小学校外国語活動における学級担任の不安を軽減するための工夫
- 中学校外国語科(英語)における「社会的な話題」に関する英作文指導
- 中学校外国語科の話すこと(やり取り)における適切な言語材料と言語活動を効果的に関連づける指導の手立てと実践
- 中学校音楽科教育における ICT 機器の活用可能性
- ICTを適切に活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に繋げる理科授業の実践
- 高等学校生物におけるメタ認知を活性化する授業デザインとその効果
- 美術科教育における創造性の育成について



○管理職養成コース



アドミッション・ポリシー

管理職養成コースは、入学者に次の資質・素養を求めます。

- スクールリーダーを目指す現職教員で、自己の能力開発と学校教育の充実・振興に貢献する意欲を持っている。
- 児童生徒の発達や教育に関する知識を持ち、学校教育の現代的課題解決への意欲がある。
- 学校教育に関する経験と実践力を有し、高度な倫理性とコミュニケーション能力がある。

カリキュラム・ポリシー

管理職養成コースは、「長崎県 校長等としての資質の向上に関する指標」を踏まえ、以下の資質・能力を育成するカリキュラムの編成、学修方法、学修支援を行います。

- 学校教育のミッションと教育をめぐる国内外の動向を深く理解するとともに、確固たる教育理念を培う。
- 学校教育の諸課題と子ども・保護者・地域の実態を把握したうえで、自校のビジョンを形成し、実践・検証・改善する資質・能力を育成する。
- 保護者・地域・関係機関等と連携し、学校内外の資源を有効に活用しながら「社会に開かれた教育課程」を実現する資質・能力を育成する。
- 学校安全の確保へ向けた安全管理・危機管理を組織的に展開する資質・能力を育成する。
- 教職員を適正に評価し、その能力や課題に応じて指導することを通して、一人ひとりの力量形成を図る資質・能力を育成する。
- 特別支援教育の理念を理解するとともに、すべての児童生徒の発達を支援する学校教育を組織的に展開する資質・能力を育成する。

ディプロマ・ポリシー

管理職養成コースは、所定のカリキュラムによる教育プログラムに定められた単位を取得し、次の資質・能力を備えた者であると認められ、実践研究報告書（最終レポート）の審査および最終試験に合格した者に対し、教職修士（専門職）を授与します。

- 高い実践力を持ったスクールリーダーとしての資質
- 学校教育の現代的課題を解決する実践力
- よりよい学校組織を構築するマネジメント能力
- 一人ひとりの児童生徒の実態に応じた的確に対応できる教員を育成する能力

講義

管理職に必要な資質・能力を高めることができるプログラム

実習

附属・公立

学校組織マネジメント演習（通年）

組織開発についての文献の理解をベースに、学校現場の問題や管理職としての対応策等を、ディスカッションをとおして明らかにしていきます。実態（問題）把握のためのデータ収集と分析法も学びます。



リーダーの役割と資質（前期）※2

リーダーの役割と資質の理解に向けて、国内外の教育をめぐる動向を多角的に学び、それをこれまでの経験に照らして考察することで、自らの教育理念を問い直し、鍛えていくための授業です。「学び続ける」管理職としての在り方についても学ぶことができる貴重な機会となります。

学校教育実践実習 5

●期間

教育学部附属学校・園

各3日

公立学校（校種毎）

各3日（計90時間以上）

学校経営総論（前期）※1

／学校危機管理の理論と実践（後期）※2

長崎県の様々な分野をリードする方々のお話を聞くことができ、「育成指標」の観点から学校経営について考えることができます。また、学んだことを咀嚼し、自分の言葉に起こしていく作業は、管理職として学校現場で何ができるかを、具体的に考えることができ、資質を向上させてくれます。

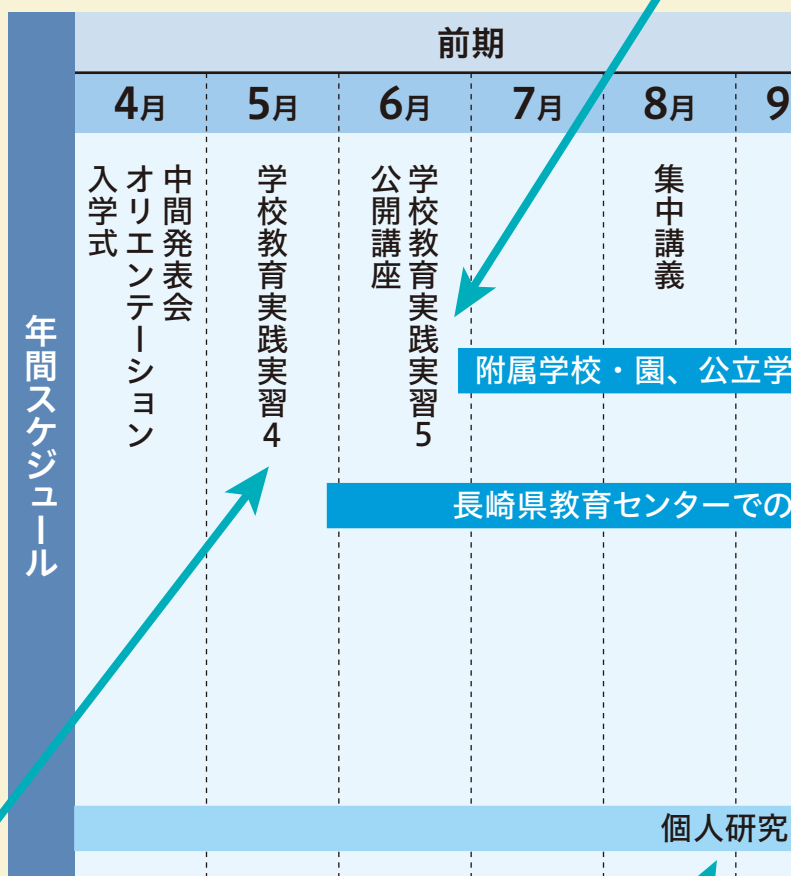
講義タイトル

- ・「長崎県の教育行政施策」（県教育庁義務教育課 課長）
- ・「PTAと学校経営」（元日本PTA全国協議会会長）
- ・「最新の学校危機管理事案」（県教育庁 児童生徒支援課）
- ・「リーガルマインドからみた学校教育」（長崎県弁護士会 弁護士）
- ・「高等学校における学校経営」（長崎県立長崎東高等学校 校長）など

※1：令和元年度「学校経営総論」及び「学校教育実践実習4」は、教職員支援機構の助成を受け実施しました。
詳細は <https://www.gedu.nagasaki-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/03/k-2019.pdf>



※2：「リーダーの役割と資質」「学校経営総論」「学校危機管理の理論と実践」は、長崎県教育センター管理職研修選択講座として、長崎県内公立学校管理職等へ公開しています。



実習

長崎県教育センターにおける職員研修について
実践的に学ぶプログラム

学校教育実践実習4 ※（県教育センターでの実習）

●参画講座

- ・新任校長研、新任教頭研、ミドルリーダー研、中堅研等から3・4講座（計90時間以上）

●研修内容

- ・各講座の企画段階から参画し、県の施策や指標を踏まえた学校経営、職員研修の重要性を理解できます。併せて、県の施策、学校教育目標を具現化するための視点、手立てを学ぶことができます。
- ・各講座において、指導助言や協議のファシリテーター役を担う経験を通して、ファシリテーターとしての心構えやスキルだけでなく、職位や世代別の視点や認識の違いを俯瞰的に考えることができます。

実践研究報告書の作成に向け、

“学校教育実践研究”は、大学院にあたります。ここでは、組織開発や人学校経営において自分が詳しく研究していて、1年をかけて追究していきます。のような研究が行われてきたのかを研習を通して学んだり、附属学校等での管理職にインタビューをしたり、目的で調査研究を進めていきます。

研究を進めるにあたっては、大学教員で協働的に進めていくので、安心して取り組むことができます。

校の管理職から直接学ぶことができるプログラム※3

(附属学校・園及び公立学校での実習)

●内容

- 各校の実態に応じ、以下のような内容の実習を行います。
- ・管理職による登下校指導、授業参観、会議・研修への参加
 - ・管理職の参与観察及び講話
 - ・学校経営案や講話の作成、授業参観後の指導助言の方法の検討

※3：令和2年度「学校教育実践実習5」は、教職員支援機構の助成を受け実施しました。

詳細は <https://www.gedu.nagasaki-u.ac.jp/wp-content/uploads/2021/04/houkoku-2020.pdf>



実践研究報告書(最終報告書)のテーマ例

- 「活力ある学校」づくりへ向けての組織マネジメントに関する研究
- 日常的に教員育成を図る校内組織の構築に関する研究
- 地域と共にある学校を実現する管理職の働きかけ
- 学校の教育力を高める人材育成に関する考察
- 創造的な学校をつくる授業研究の在り方
- 地域や家庭との連携・協働によるカリキュラム・マネジメントに関する考察
- 学校経営方針の共有を図る管理職の具体的方策に関する研究
- 「チーム学校」づくりのための組織マネジメントに関する研究
- 持続可能な組織力を培う学校組織マネジメントの在り方に関する研究
- 初任・若手教師の育成を中核にした育ち合う組織作りに関する研究

1年間の学びの集大成を仲間と共有するプログラム

教育実践研究成果報告会

年間を通して、各自が取り組んだ研究を発表します。(発表・質疑20分)

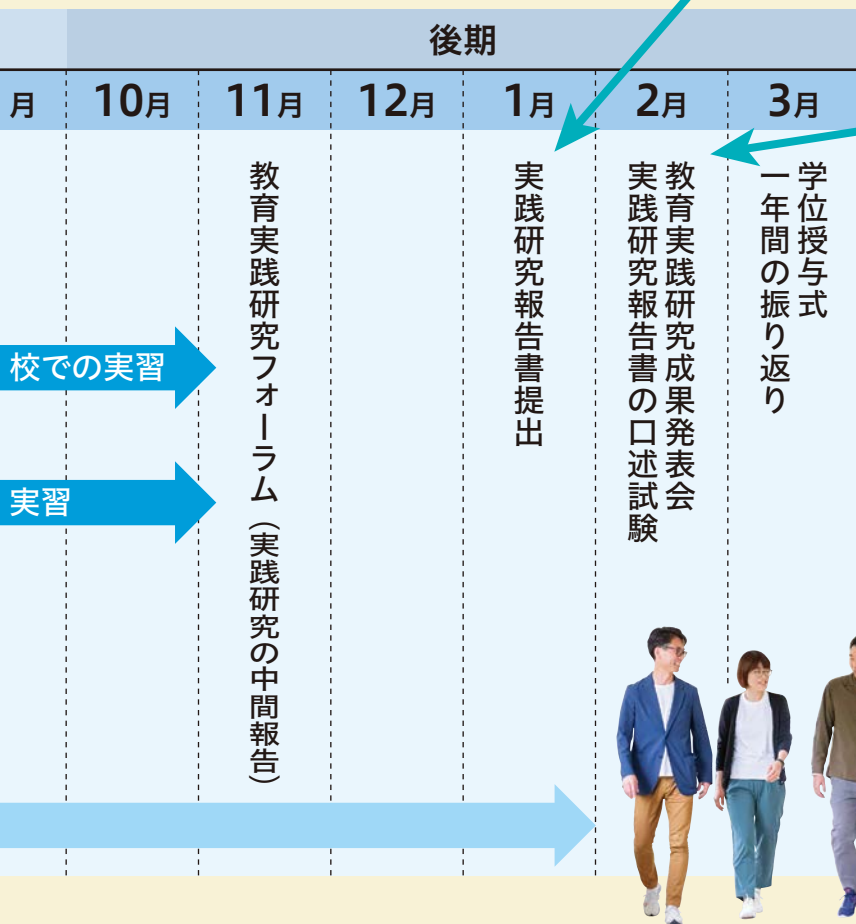
参加者 教育委員会及び教育センター職員、実習先教員、大学教員、院生、一般参加者他



講義外での学び

●院生室における学び

管理職養成コースの院生が、「子ども理解・特別支援教育実践コース」、「学級経営・授業実践開発コース」、「教科授業実践コース」の3コースの部屋に分かれて入り、講義内容について議論を深め、また、実習での授業づくりのアドバイスをしました。



ゼミ形式で個人研究を深めるプログラム

おけるゼミに
材育成など、
たい課題につ
これまでにと
究論文や書
実習の中で
に応じた方法

員も院生も複
て充実した研



在学生・修了生からのメッセージ

自分の強みを築くために

増本 渚 先生

子ども理解・特別支援教育実践コース

2年プログラム

令和5年度修了生（現ときわ台小学校教員）



教師として経験を積み上げていくことで、少しずつ教師としての軸をもち、自分の言動や行動に自信をもつことができるようになりました。しかし、虐待や孤立など子どもたちの教育的ニーズが複雑で多様となり、今まで培ってきた経験を生かすことができず、自信のないまま援助する経験が増え、自分の教師としての力量のなさを痛感するようになりました。それと同時に「子ども達を上手く援助することができるようになりたい」「子ども一人ひとりの思いやSOSを受け止めることができるようになりたい」という強い思いをもつようになり、子ども理解・特別支援教育実践コースで学ぶことを決意しました。

大学院では、学校心理学の心理教育的アセスメントに興味をもち、研究を行いました。研究を進める中で、子供を援助するためには、まずは援助者である教員が、自分自身の強みを確認することが重要であることに気づき、自分の興味や価値観を振り返るなどの自己分析や、大学教授の方や院生の仲間達からのフィードバックを受けることで、自分の性格や能力について深く見つめ直すことができました。

自分の強みを見つけ、築いていくことは、教師としてのキャリアの中で重要な一歩だと思います。

是非、大学院でその一歩を踏み出してみませんか。

教職大学院でしかできない学び

平林 千奈満 さん

学級経営・授業実践開発コース

2年プログラム

在学生（令和5年度入学）



私は、長崎大学教育学部の小学校教育コースに在学していました。教職の専門性と実践力を備えた教員になりたいと考え、大学院進学を決意しました。

大学院では、コースごとに専門性を高めることのできるカリキュラムが組まれており、講義や学校教育実践実習などを通して学びを深めることができます。また、ストレートマスター・現職教員学生の院生同士の対話や、研究者の先生方・実務家の先生方に学術的な理論を教えていただきながら共に学ぶことができることも魅力だと思います。実際、私は大学院の学びを通して、「技術的熟達者」から「省察的実践者」を目指したいと、教育観や授業観を問い直すこともできました。

また、教職の専門性と実践力を高めるとともに、自分が研究したいことにじっくりと向き合う環境が整っていることも本大学院の魅力だと考えます。

校種や教科、世代を超えた仲間とともに学び、「つながり」と「専門性」を高めることができます。ぜひ、長崎大学大学院教育学研究科で新たな一歩を踏み出してみてください。

ステップアップ!!

松田 大輔 さん

教科授業実践コース

3年プログラム

在学生（令和4年度入学）



私は、3年プログラムという形で高等学校の地理歴史科の免許を取得しながら、教科指導の専門性を高めるために教育学研究科に進学しました。

3年間という時間を大学院で過ごす中で、これまでイメージしてきた理想の授業の形を、より具体的に落とし込むことができるようになってきています。また、現職や管理職の先生方との出会いや他教科・他校種の仲間との交流を通じて、多面的・多角的な見方・考え方が身につけ、私自身の教育観を深化することができました。

今年度は、高等学校の社会科教育についての研究を行い、それをもとに授業づくりと授業実践にもチャレンジしていきたいと考えています。その中で、生徒の思考がスムーズに流れることができる授業を現場でも実践できるような教員を目指していきます。

本研究科では、様々な実践を行う環境が整っており、自分のやりたいことに全力で取り組むことができます。ぜひ、「教科指導力を上げたい!」などの目的をもって本研究科への進学を目指してみてもどうでしょうか。

深い学びの1年間

畑中 清二 先生

管理職養成コース

1年プログラム

令和5年度修了生（現 島原特別支援学校教頭）



教育現場を少しの期間離れ、外側から見たり違う角度から見たりすることは、今の時代に必要な余白を生み出すことにつながります。1年間の学びは新たな教員人生のスタートとなったことを現場に戻って実感しています。

講義で学んだ特定の物事や事象・人物を否定的な観点でみる「クリティカル」な視点は、自身の凝り固まった考え方や従来のやり方だけで物事を見るのではなく、様々な角度から見ることでより良い解決方法につながるヒントになり、昨今の課題である教職員の働き方にも生かせるのではないかと感じています。

ミドル層を生かした管理職と教職員に働きかけるミドルアップダウンマネジメントは組織を活性化し、課題解決力を高めることになり、これからの学校運営には必要となっていくことを学びました。

大学院の講義は、これまで実践してきた指導法等の確認や振り返り、新たな知識の吸収の場として有意義な時間であり、小学校や中学校、高校や特別支援学校の現役の先生方との交流を重ねることで、教育の視野を広げる絶好の機会でした。

長い教員生活の中のわずかな1年間、されど深く意味ある1年間。ぜひ、このような学びの機会を手に入れるために大学院への一歩を踏み出してみたいかがでしょうか。

◆ 入試情報（日程）

大学院入試は9月下旬・11月下旬になります。

詳しくは、教育学研究科のホームページの「入試情報」をご覧ください。

教育学研究科(教職大学院)入試情報アドレス

<https://www.gedu.nagasaki-u.ac.jp/examination/>



教職大学院 Q&A

Q 現在、教員免許を持っていませんが、教職大学院へ進学できますか。

A 本教職大学院では、教員免許を取得していない人が取得を目指す、3年履修プログラムを設けています。3年間で一種免許状と専修免許状が取得できます。ただし、子ども理解・特別支援教育実践コースへ進学し、特別支援学校教諭免許状の取得を目指す人は、基礎となる幼稚園、小学校、中学校、高等学校のいずれかの教諭一種免許状を取得済みであることが必要です。

Q 現在、小学校の教員免許を持っていますが、英語教育に興味があり、中学校・高等学校の英語の教員免許を取得したいと考えています。どのコースに進学したらよいでしょうか。

A 中学校・高等学校の英語の教員免許を取得したい場合は、教科授業実践コースへ進学してください。他のコースより英語教育に関連した授業科目が揃っています。また、実習も中学校あるいは高等学校で行うことができ、充実した指導が受けられます。

Q この大学院教育学研究科を修了し、教員になろうとするとき何か優遇措置がありますか。

A はい。自治体によっては、教職大学院の修了者に教員採用試験の一次試験の免除などの措置をとっているところがあります。詳しくは、採用試験を受けようとする自治体にお問合せください。

Q 教員採用試験に合格し、大学院教育学研究科の入試にも合格しました。この場合、大学院入学は断念し、教員になった方がよいのでしょうか。

A 多くの自治体では、本研究科のような教職大学院に合格した場合、修了まで採用を待つ措置をとっています。九州内の自治体では、長崎県をはじめほとんどの自治体が、教員採用候補者名簿の搭載期間を延長しています。詳しくは、採用を希望する自治体にお問い合わせください。

Q 教職大学院への進学を考えていますが、学費や生活費の面で不安があります。授業料免除や奨学金制度は、どのようになっているのでしょうか。

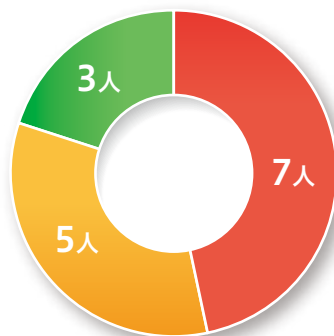
A 日本学生支援機構の奨学金制度には、修了後、成績優秀者は奨学金の一部返還免除になる制度があります。また、長崎大学では授業料免除制度を設けています。詳しくは、教育学研究科の大学院担当にお尋ねください。

Q 現職の教員です。現職教員の院生数は何人ですか。給与はどうなりますか。

A 年度によって変わりますが、令和6年度は1年生9名（小学校籍3名、中学校籍4名、高等学校籍1名、特別支援学校籍1名）2年生3名（小学校籍2名、特別支援学校籍1名）です。募集は7月から始める予定です（令和7年度は2期に分かれます）。なお、給与は研修扱いであれば、学校に所属している場合と同じように支給されます。

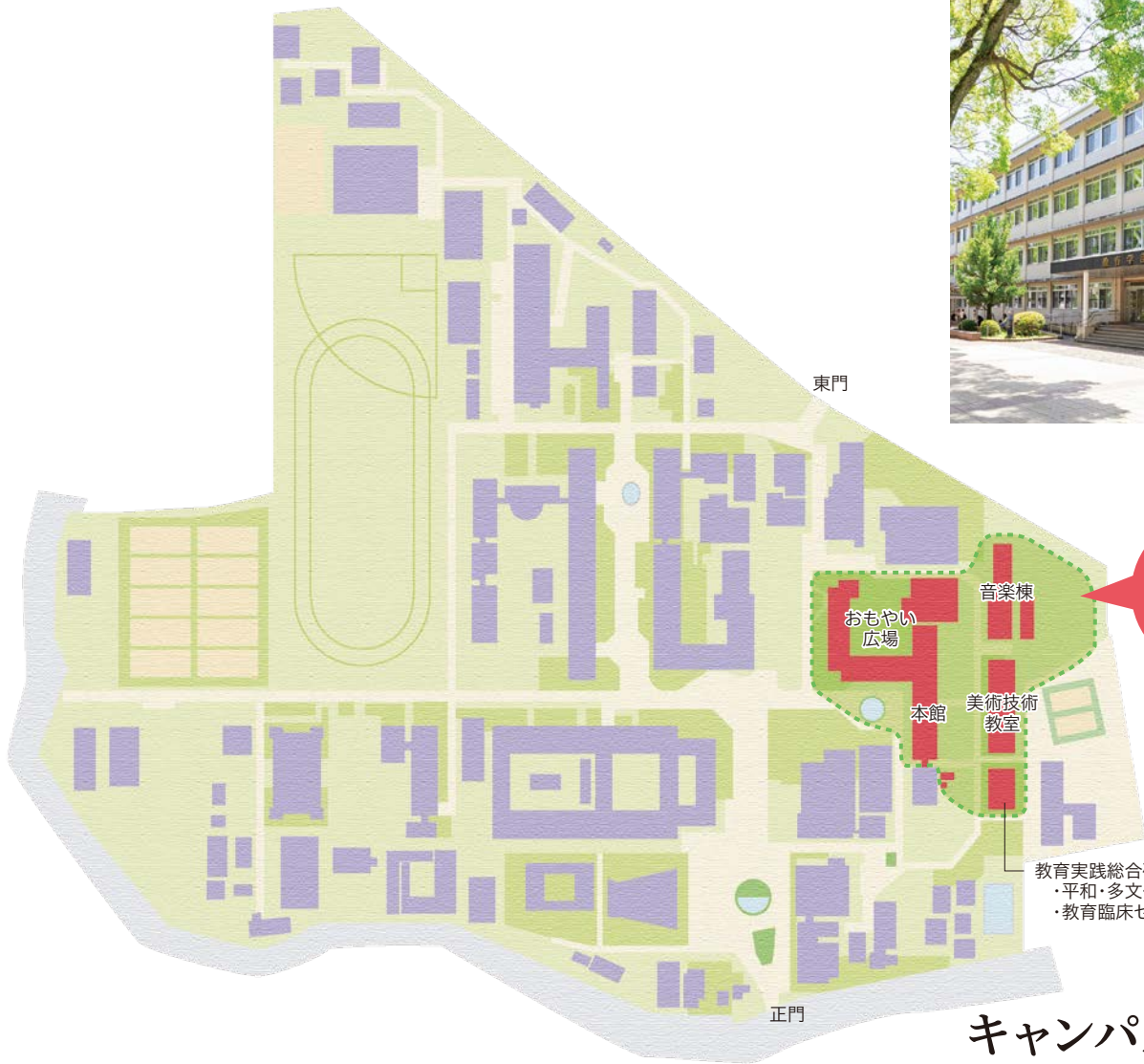
Q 修了後の就職状況は、どうでしょうか？

A 右のグラフは、令和5年度修了生（現職教員を除く）の就職状況で、教員志望の院生の教員就職率は100%で、全員が正規教員として教職に就いています。12人の校種別は、小学校7人、中学校4人、特別支援学校1人です。ここ5年間では、約9割の人が教職に就いています。



令和5年度大学院修了生（現職教員除く）進路状況

■ 教員(正規)既合格
■ 教員(正規)
■ 保育士など



教育学
研究科

教育実践総合研究棟
・平和・多文化センター
・教育臨床センター

キャンパスマップ 文教キャンパス



交通 アクセス

- JR長崎駅から
 - ・路面電車 「長崎駅前」→(赤迫行き)→「長崎大学」下車
 - ・長崎バス 「長崎駅前」→(1番系統)→「長崎大学前」下車
- JR浦上駅から
 - ・路面電車 「浦上駅前」→(赤迫行き)→「長崎大学」下車
 - ・長崎バス 「浦上駅前」→(1番系統)→「長崎大学前」下車
- 長崎空港から
 - ・県営バス「長崎空港4番のりば」→(昭和町・浦上経由長崎方面行き)→「長大東門前」下車



長崎大学大学院教育学研究科

〒852-8521 長崎市文教町1-14 TEL.095-819-2266
研究科サイト <https://www.gedu.nagasaki-u.ac.jp>



教育学研究科